

大滝学園・ゆうゆう地域連携推進会議 議事録

開催日時：令和7年8月26日（火） 14：00～16：20
場所：大滝学園 支援員室
出席者：構成員5名、施設（施設長、支援課長、主任支援員、支援員2名、利用者1名）

【会議の概要】

1. 施設長あいさつ
2. 職員・構成員自己紹介
3. 議事進行～施設長

①地域連携推進会議設置要綱について～別紙資料に基づき、施設長より説明
②地域連携推進会議の内容

- 1) 大滝学園・ゆうゆうの概要及び取り組み
- 2) 障がい者について～近年の傾向と大滝学園の現状
- 3) 虐待・事故・ヒヤリハットについて

休憩、質問や意見交換

- 4) 利用者の日常生活の様子について
- 5) 地域とのつながり

会議全体を通して、出席者の皆様からのご意見・質問等

その他意見交換（・～意見、質問 ⇒～回答）

< E 構成員 >

・障害区分とはどういうものかとの質問があった。

⇒障害区分については、次の報告の中で説明しますと伝え、報告後、E構成員に理解して頂いた。

< C 構成員 >

・施設運営について、報酬改定があつて収入が安定しているとのことだが、物価高騰等で今後の施設運営は不安が多いのか、それとも一定の持続性は見込まれるのかと質問があった。

⇒当施設は重度の利用者の方が8～9割で、前年度は強度行動障害の初期加算と重度障害支援加算の人数増加により収入は増加したが、建物は50年を超えており、都度修繕費用や物価高騰に備える必要がある。

⇒入所施設は通所施設より収入は安定している。優徳荘も近く50年を迎えるが、今後も水害被害が予想され、また建て替えも出来ない。大滝から施設がなくなることはないと思われ、また統合等は検討しているが、具体的な話しあは進んでいない。ターニングポイントに差し掛かっている。

< A 構成員 >

・重度の利用者の方の意思表明はとても難しいが、家族との関わりで意思表出を職員はどうのに対応しているのか。また優徳荘の利用者の方で就労継続支援B型事業所に行

きたいという方がいたが、大滝区内に施設が2つある中で通所施設についてはどのように考えているのか。

⇒意思表出について、答えられる方には直接聞いている。コミュニケーションが難しい方の物品購入等はご家族に確認している。当施設でセレクト食（主菜やデザートを選択）があるが、意思表出が難しい方は本人の嗜好から職員が選択している。コミュニケーションができる方でも話していることと要求が違うことがある。

⇒以前テレビで私達は起床してから寝るまでの間に多くの選択をしているというのを観たが、利用者の方の選択を奪っていることが多いことに気づいた。例えば立ち上がった利用者の方に対し、安全を優先して座らせてしまう場面があれば、これは選択や行動を奪い制限していることになり、何がしたいのかという考え方や視点が欠けてしまっている。悪い事ではないが、安全や健康で何気ない一日を過ごすことになってしまることがあり、また、全体の流れに沿っていかざるを得ない生活になっていることに対して、議論し続けて行かなければならない。

⇒意思表出が難しい利用者の方に対して、何が楽しそうか、楽しくなさそうかで判断していくこともある。

⇒就労継続支援B型事業所について、現在大滝学園では薪作業等を行っているが、事業所運営については検討していない。実際にB型事業所で働きたい利用者の方がいても近くで壮瞥町まで送迎をしなくてはならず、現実的ではない。

< A構成員 >

・薪や野菜販売等でB型事業所や小規模事業所は可能かと思われる。壮瞥町ではA型事業所が1カ所、B型事業所が3カ所ある。大滝にも事業所が出来れば支援の幅が広がるのではないか。利用者の方にも地域にも良い取り組みになると思う。

< A構成員 >

・障害のあり方を理解して接することについて、子どもは違和感、差別、偏見を持たず接することができる。保育所の年代の時等幼少期に障がい者と一緒に過ごしたり、触れ合うことで、差別感がなく接することができると感じる。施設職員が学校等に行き、「出前講座」をすることも偏見や差別を少なくする効果がある。施設行事のボランティア等の機会も含めて触れ合いがないと差別や偏見はなくせない。学校とも連携をして機会を設けることが必要。

< B構成員 >

・自分は大滝出身で30～40年前は障がいのある方と触れ合う機会はたくさんあった。今は授業数が増え、カリキュラムも多くなる等、触れ合う機会が減り、交流が薄れてしまっている。子どもの時に触れ合うことで垣根がなくなると思うが、時代の変化とともに交流もなくなってきてしまっているため、現状にあった方法を検討していくことが大事である。

< C構成員 >

・コロナが蔓延し、その間で交流が4年程途絶えていたが、先日高学年がボランティアで大滝学園に来た際には、交流が自然と出来ていた。積み上げが大事だと思う。昨年優徳荘との交流も再開したが、低学年や保育所の年代からも交流ができるように具体的に検討していきたい。運動会にも参加していただいているが、学校祭にも参加していただき

たいし、利用者の方の作品も子ども達の目に触れさせたい。

< A 構成員 >

・アート作品の展示販売を野口観光等の地元企業と協力する方法もある。多様性を打ち出すにはお互いの話し合いが必要で、アートをどう動かしていくかは課題がある。学校に飾っても良いと思う。

⇒札幌でも作品展を行い、伊達でも作品展を行う予定。アートで見ると障がいは関係ない。積極的な発信が重要である。

< C 構成員 >

・学校のスペースも提供したい。作品も明るいし、学校も明るくなる。

< A 構成員 >

・ただ描いたものなら作品にならないため、絵はがきやポーチ、服の柄にする等はプロの手を借りることが必要。

⇒作品については構想はあるが、具体的には動いていない。他の事業所等とのつながりはあるため、今後検討していきたい。

4. その他

特になし

沢山のご意見や感想等をいただきました。ありがとうございました。

5. 閉会